

(7) 大野原古墳群

観音寺市大野原町には、3基の大きな古墳があります。これらの古墳は、今から1400年ほど前につくられ、2つの大きな特徴をもっています。

まず1つめの特徴は、3基の古墳が四国内でも最大級の横穴式石室を備えていることです。

2つめの特徴は、椀貸塚古墳→平塚古墳→角塚古墳の順で、半世紀ほどの間に連続してつくられたことです。この期間は、日本の国で聖徳太子が活躍していたころから大化の改新ごろまでの時期にあたります。

このような巨大な横穴式石室をそなえた古墳が、近い場所で連続してつくられている例は西日本でもめずらしく、椀貸塚古墳・平塚古墳・角塚古墳は、平成27年10月7日に国の史跡に指定されています。また、令和2年には、椀貸塚の近くにある岩倉塚古墳も国の史跡に追加指定されました。

